



明治42年の樽前山大噴火



昭和25年の大水害の様子（緑町付近）



今年8月に発生した道路冠水（柏木町）



真冬の海で、水難救助訓練（北ふ頭）



屋上から救助者を下ろす訓練（消防署）



避難所に逃げ！津波避難訓練（樽前町内会）



火災を想定した避難訓練（拓勇小）



炊き出し訓練で、ホッと一息（明德小）

災害と 訓練

いつ起きるか分からない災害。
だからこそ、
訓練はいつも慎重に。真剣に。

次の世代に継ぐ

「私たちの世代は小さい頃から、親に『津波なんか来ることはない。怖いのは樽前山の噴火だ』と言われて育ちました。震災を見た今となっては考えられないことですけどね」
青山さんは、インタビューの最後に、そう話してくれました。

それまでの災害の記録や、悲しい被災の記憶。先人が経験し、伝えてきたことの積み重ねが、今の「防災」の基礎になっています。

苫小牧に大きな津波が来ることはない。その考え方は、東日本大震災以降、多くの研究や調査によって覆されました。これは、今、私たちが経験したことであり、後世に伝えていくべき知恵です。

災害は、いつ起こるかわかりません。また、発生したら止める方法はありません。私たちにできることは、災害の恐ろしさを知り、日頃の備えを怠らず、油断せずに災害と向き合うこと。そして、その約束事を次の世代へ引き継ぐことです。

その積み重ねが、新たな「防災」を作り出し、まちを、みんなを守る力になります。